

四半期報告書

(金融商品取引法第24条の4の7第1項に基づく報告書)

(第56期第2四半期)

自 平成29年7月1日

至 平成29年9月30日

旭情報サービス株式会社

東京都千代田区丸の内1丁目7番12号

(E04920)

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

旭情報サービス株式会社

目 次

	頁
【表紙】	
第一部 【企業情報】	1
第1 【企業の概況】	1
1 【主要な経営指標等の推移】	1
2 【事業の内容】	1
第2 【事業の状況】	2
1 【事業等のリスク】	2
2 【経営上の重要な契約等】	2
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	2
第3 【提出会社の状況】	4
1 【株式等の状況】	4
2 【役員の状況】	5
第4 【経理の状況】	6
1 【四半期財務諸表】	7
2 【その他】	13
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	14

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年11月13日
【四半期会計期間】	第56期第2四半期（自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日）
【会社名】	旭情報サービス株式会社
【英訳名】	ASAHI INTELLIGENCE SERVICE CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 田 中 博
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内1丁目7番12号
【電話番号】	03（5224）8281（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役財務経理部長兼IR室長 英 保 吉 弘
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区丸の内1丁目7番12号
【電話番号】	03（5224）8281（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役財務経理部長兼IR室長 英 保 吉 弘
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 旭情報サービス株式会社 横浜支社 （横浜市神奈川区金港町1丁目4番） 旭情報サービス株式会社 中部支社 （名古屋市中区錦2丁目3番4号） 旭情報サービス株式会社 大阪支社 （大阪市北区中之島2丁目2番2号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第55期 第2四半期累計期間	第56期 第2四半期累計期間	第55期
会計期間		自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高	(千円)	5,005,865	5,182,328	10,225,693
経常利益	(千円)	283,846	372,271	840,723
四半期(当期)純利益	(千円)	184,185	248,031	603,543
持分法を適用した場合の投資利益	(千円)	—	—	—
資本金	(千円)	733,360	733,360	733,360
発行済株式総数	(千株)	8,264	8,264	8,264
純資産額	(千円)	6,758,388	7,211,748	7,085,244
総資産額	(千円)	8,551,820	9,081,097	9,006,373
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	23.67	31.89	77.58
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	—	—	—
1株当たり配当額	(円)	15.00	16.00	31.00
自己資本比率	(%)	79.0	79.4	78.7
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	202,653	296,882	600,172
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	△311,102	△22,128	472,956
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	△118,462	△127,171	△237,618
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	(千円)	3,024,216	4,234,221	4,086,639

回次		第55期 第2四半期会計期間	第56期 第2四半期会計期間
会計期間		自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	14.16	18.89

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。
- 4 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において当社が営む事業の内容について重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、海外経済や主要国の政策、地政学的リスクの高まり等が先行きのリスク要因としてあるものの、企業収益や雇用・所得の改善が継続しており、緩やかな景気回復基調で推移いたしました。

情報サービス産業におきましては、IoT、AI（人工知能）を活用したITサービスの進展、クラウドサービスやセキュリティ対策等の需要を軸にIT投資全般は引き続き堅調に推移しております。一方で既存システムにおけるITサービスに対する企業のコスト削減姿勢は変わらず、依然として価格面は抑制傾向にあります。

このような情勢の下、当社では、引き続きアウトソーシング案件や上流工程案件の取引拡大に注力するとともに、受注案件ごとの採算性向上に努めました。また、若手社員の早期戦力化に向けた育成強化等に取り組み、受注拡大を図りました。

これらの結果、当第2四半期累計期間の経営成績は、売上高5,182百万円（前年同期比3.5%増）、経常利益372百万円（前年同期比31.2%増）、四半期純利益248百万円（前年同期比34.7%増）となりました。

部門別の営業状況は、次のとおりであります。

（ネットワークサービス）

アウトソーシング案件の取引拡大を継続的に図るとともに、当部門への積極的な技術者投入やビジネスパートナーの活用を推進した結果、売上高は4,193百万円（前年同期比4.3%増）となりました。

（システム開発）

組込み系ソフト開発における検証業務が引き続き減少したものの、業務系アプリケーション等の案件獲得に努めた結果、売上高は793百万円（前年同期比1.0%増）となりました。

（システム運用）

汎用系の運用やオペレーション業務は、市場の縮小とともに価格下落が継続していることから、汎用系技術からネットワーク系技術への移行に継続して取り組んだ結果、売上高は195百万円（前年同期比2.4%減）となりました。

(2) 財政状態の状況

（資産）

当第2四半期会計期間末における流動資産は、前事業年度末より48百万円増加し、7,070百万円となりました。これは主に、現金及び預金147百万円、仕掛品16百万円の増加と、売掛金126百万円の減少によるものであります。固定資産は26百万円増加し、2,010百万円となりました。これは主に、保険積立金34百万円、前払年金費用10百万円の増加と、その他に含まれる賃貸不動産17百万円の減少によるものであります。

この結果、資産総額は、前事業年度末より74百万円増加し、9,081百万円となりました。

（負債）

当第2四半期会計期間末における流動負債は、前事業年度末より41百万円減少し、1,757百万円となりました。これは主に、賞与引当金24百万円の増加と、未払法人税等22百万円、未払費用10百万円、その他に含まれる未払消費税等24百万円の減少によるものであります。固定負債は前事業年度末に比べ10百万円減少し、111百万円となりました。これは主に、役員退職慰労引当金10百万円の減少によるものであります。

この結果、負債総額は、前事業年度末より51百万円減少し、1,869百万円となりました。

（純資産）

当第2四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ126百万円増加し、7,211百万円となりました。これは主に、四半期純利益248百万円の計上による増加と、配当金124百万円の支払いによる減少によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ147百万円増加し、4,234百万円となりました。なお、各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果増加した資金は296百万円（前年同期は202百万円の増加）となりました。これは主に、税引前四半期純利益369百万円、売上債権の減少126百万円、法人税等の支払額138百万円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果減少した資金は22百万円（前年同期は311百万円の減少）となりました。これは主に、保険積立金の積立による支出34百万円、賃貸不動産の売却による収入14百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果減少した資金は127百万円（前年同期は118百万円の減少）となりました。これは主に、配当金の支払額124百万円によるものであります。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期累計期間において、当社が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありませんが、引き続き入手可能な情報に基づいて市場動向の把握に努めるとともに、最善の経営方針を検討してまいります。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において当社が対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた事項はありません。

(6) 研究開発活動

該当事項はありません。

(7) 経営成績に重要な影響を与える要因

前事業年度における有価証券報告書の「第2 事業の状況」の「4 事業等のリスク」に記載の内容から変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,729,000
計	20,729,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成29年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	8,264,850	8,264,850	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 1,000株
計	8,264,850	8,264,850	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年9月30日	—	8,264,850	—	733,360	—	623,845

(6) 【大株主の状況】

平成29年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合 (%)
旭情報サービス社員持株会	東京都千代田区丸の内1丁目7番12号	1,049	12.70
大槻 幸子	横浜市青葉区	420	5.09
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号	374	4.53
小野 一夫	京都市伏見区	174	2.11
大槻 武史	東京都目黒区	159	1.93
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	157	1.90
平野 民藏	神奈川県横須賀市	153	1.85
大槻 剛康	大阪府吹田市	140	1.71
大槻 幸史	北海道苫小牧市	136	1.65
大槻 広子	横浜市青葉区	97	1.18
計	—	2,862	34.63

(注) 上記のほか、当社所有の自己株式が490千株 (5.93%) あります。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 490,000	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 7,670,000	7,670	—
単元未満株式	普通株式 104,850	—	—
発行済株式総数	8,264,850	—	—
総株主の議決権	—	7,670	—

② 【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合 (%)
旭情報サービス株式会社	東京都千代田区丸の内 1丁目7番12号	490,000	—	490,000	5.93
計	—	490,000	—	490,000	5.93

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,586,639	4,734,221
売掛金	1,798,907	1,672,875
有価証券	199,720	199,920
仕掛品	2,684	19,335
前払費用	170,053	179,594
繰延税金資産	258,805	258,743
その他	5,205	5,433
流動資産合計	7,022,015	7,070,124
固定資産		
有形固定資産	44,170	40,999
無形固定資産	9,845	8,256
投資その他の資産		
投資有価証券	741,038	746,000
敷金及び保証金	※ 199,585	※ 197,659
保険積立金	677,532	712,314
前払年金費用	255,837	266,480
その他	56,348	39,263
投資その他の資産合計	1,930,341	1,961,717
固定資産合計	1,984,358	2,010,973
資産合計	9,006,373	9,081,097

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
短期借入金	230,000	230,000
未払金	106,289	101,204
未払費用	423,322	412,456
未払法人税等	159,330	136,968
賞与引当金	700,000	724,800
その他	180,063	152,373
流動負債合計	1,799,005	1,757,803
固定負債		
リース債務	1,889	1,574
繰延税金負債	38,843	38,726
役員退職慰労引当金	81,390	71,245
固定負債合計	122,123	111,546
負債合計	1,921,129	1,869,349
純資産の部		
株主資本		
資本金	733,360	733,360
資本剰余金	624,519	624,519
利益剰余金	6,074,443	6,198,041
自己株式	△366,755	△369,237
株主資本合計	7,065,566	7,186,684
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	49,377	54,763
土地再評価差額金	△29,700	△29,700
評価・換算差額等合計	19,677	25,063
純資産合計	7,085,244	7,211,748
負債純資産合計	9,006,373	9,081,097

(2)【四半期損益計算書】

【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	5,005,865	5,182,328
売上原価	4,001,422	4,104,150
売上総利益	1,004,443	1,078,177
販売費及び一般管理費	※ 726,150	※ 709,705
営業利益	278,292	368,471
営業外収益		
受取利息	2,894	1,634
受取配当金	2,206	2,227
賃貸不動産収入	2,441	1,278
助成金収入	1,333	862
雑収入	774	733
営業外収益合計	9,649	6,735
営業外費用		
支払利息	1,519	1,091
賃貸不動産費用	2,575	1,843
営業外費用合計	4,095	2,934
経常利益	283,846	372,271
特別損失		
固定資産売却損	—	2,676
減損損失	11,567	—
特別損失合計	11,567	2,676
税引前四半期純利益	272,279	369,594
法人税等	88,094	121,562
四半期純利益	184,185	248,031

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	272,279	369,594
減価償却費	5,622	5,284
長期前払費用償却額	2,434	1,968
減損損失	11,567	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	106	126
賞与引当金の増減額 (△は減少)	18,075	24,800
前払年金費用の増減額 (△は増加)	△13,985	△10,642
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△3,060	△10,145
受取利息及び受取配当金	△5,100	△3,861
支払利息	1,519	1,091
賃貸不動産収入	△2,441	△1,278
賃貸不動産費用	2,575	1,843
固定資産売却損益 (△は益)	—	2,676
売上債権の増減額 (△は増加)	53,868	126,031
前払費用の増減額 (△は増加)	△6,830	△9,540
その他の資産の増減額 (△は増加)	△672	△15,577
未払費用の増減額 (△は減少)	2,483	△10,865
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△11,632	△24,894
その他の負債の増減額 (△は減少)	△8,943	△12,839
その他	△125	△91
小計	317,740	433,680
利息及び配当金の受取額	6,867	3,231
利息の支払額	△1,454	△1,096
法人税等の支払額	△120,499	△138,932
営業活動によるキャッシュ・フロー	202,653	296,882
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	—	△524
投資有価証券の取得による支出	△400,000	—
有価証券の償還による収入	100,000	—
保険積立金の積立による支出	△12,328	△34,782
賃貸不動産の賃貸による収入	2,206	1,278
賃貸不動産の管理による支出	△1,372	△1,217
賃貸不動産の売却による収入	—	14,610
敷金及び保証金の差入による支出	△1,558	△1,300
敷金及び保証金の回収による収入	1,232	1,117
その他	718	△1,310
投資活動によるキャッシュ・フロー	△311,102	△22,128
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の増減額 (△は増加)	△988	△2,481
配当金の支払額	△116,814	△124,030
リース債務の返済による支出	△658	△658
財務活動によるキャッシュ・フロー	△118,462	△127,171
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△226,911	147,582
現金及び現金同等物の期首残高	3,251,128	4,086,639
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 3,024,216	※ 4,234,221

【注記事項】

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。

(四半期貸借対照表関係)

※ 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成29年9月30日)
投資その他の資産		
敷金及び保証金	5,800千円	4,800千円

(四半期損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
給与	251,439千円	241,943千円
賞与引当金繰入額	73,578	75,864
役員退職慰労引当金繰入額	4,780	4,645
退職給付費用	5,039	4,597
家賃	130,957	129,052
減価償却費	5,396	5,184

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
現金及び預金勘定	4,024,216千円	4,734,221千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△1,000,000	△500,000
現金及び現金同等物	3,024,216	4,234,221

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月23日 定時株主総会	普通株式	116,702	15.00	平成28年3月31日	平成28年6月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年10月28日 取締役会	普通株式	116,685	15.00	平成28年9月30日	平成28年11月25日	利益剰余金

当第2四半期累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月22日 定時株主総会	普通株式	124,433	16.00	平成29年3月31日	平成29年6月23日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年10月30日 取締役会	普通株式	124,393	16.00	平成29年9月30日	平成29年11月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)及び当第2四半期累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

当社の事業は、情報サービス事業ならびにこれらの附帯業務の単一事業であります。したがって、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
1株当たり四半期純利益	23円67銭	31円89銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	184,185	248,031
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益(千円)	184,185	248,031
普通株式の期中平均株式数(千株)	7,779	7,776

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成29年10月30日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- | | |
|-----------------------|-------------|
| (1) 配当金の総額 | 124,393千円 |
| (2) 1株当たりの金額 | 16円00銭 |
| (3) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 | 平成29年11月27日 |
- (注) 平成29年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払をおこないます。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年11月13日

旭情報サービス株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 植 村 文 雄 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 前 川 伸 哉 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている旭情報サービス株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第56期事業年度の第2四半期会計期間(平成29年7月1日から平成29年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、旭情報サービス株式会社の平成29年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年11月13日
【会社名】	旭情報サービス株式会社
【英訳名】	ASAHI INTELLIGENCE SERVICE CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 田中 博
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内1丁目7番12号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 旭情報サービス株式会社 横浜支社 (横浜市神奈川区金港町1丁目4番) 旭情報サービス株式会社 中部支社 (名古屋市中区錦2丁目3番4号) 旭情報サービス株式会社 大阪支社 (大阪市北区中之島2丁目2番2号)

1【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長田中 博は、当社の第56期第2四半期（自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2【特記事項】

特記すべき事項はありません。